

会 議 録				
平成 19 年度第9回 社会教育委員の会議	日 時	平成 20 年2月18日(月) 午後2時 00 分～4 時 00 分	場 所	旧消防署 暫定第7会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	井土、伊藤、浦野、倉持、小林、田尻、田中、彦坂、本川各委員 (欠席) 武田委員		
	その他	石川生涯学習部長、伊藤生涯学習課長、林スポーツ振興課長、田中図書館長、中嶋公民館長		
	事務局	木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 報告事項				
(1) 東京農工大学との連携事業「大人(初心者)のためのインターネット講座」の開催について				
(2) 相模原市立星が丘公民館の視察研修について				
(3) その他				
2. 協議事項				
(1) 第5ブロック研修会について				
(2) 三者懇談会について				
(3) その他				
1. 報告事項				
(1) 東京農工大学との連携事業「大人(初心者)のためのインターネット講座」の開催について (田中図書館長)				
<p>小金井図書館では、平成18年2月19日に東京農工大学小金井図書館と図書館の利用にかかる相互協力を結んでいる。その一環として共同事業の実施があり、昨年「子どもインターネット教室」を8月の4～6日に東京農工大学総合情報メディアセンターで開催した。非常に好評であったため、2月16日(土)には大人を対象にした事業を実施した。「使ってみようグーグル、グーグルアースで世界をめぐる」と題し、午後1時から4時まで、東京農工大学総合情報メディアセンターで実施した。市報2月1日号で参加者を募集し、早い段階で50人の定員に達した。図書館からはグーグルに関する本を20冊ほど会場に展示し、図書館活用のPR等を行った。</p>				
(田中議長)				
この講座は無料で実施したのか。				

(田中図書館長)

無料で実施した。参加者は高齢の方が多かった。

(2) 相模原市立星が丘公民館の視察研修について

(中嶋公民館長)

2月6日(水)に公民館本館に神奈川県相模原市立星が丘公民館から視察研修があった。午後1時30分に小泉博公民館長、公民館運営協議会委員、専門部委員、八木正公民館長代理の16人がバスにて到着、公民館本館学習室で視察研修を実施した。本市から教育長挨拶。次いで、生涯学習部長、本館企画実行委員末包委員、公民館長、職員の紹介を行った。なお、研修に当たっては、末包委員から企画実行委員制度の説明、質疑応答を行った。施設見学は、本館資料室でのITボランティアスタッフによるパソコンなんでも相談の見学、地下の福祉共同作業所の見学等を行った。

本市が視察研修先となった理由は、全国機関誌「社会教育」の12月号に優良公民館表彰を受賞してのインタビュー記事で、小金井市の特色ある公民館活動(独自の企画実行委員制度等)が掲載されたため。相模原市は中核都市として人口70万人以上。公民館32館があり公民館活動への住民参加をより一層進めるため、公民館運営審議会を平成15年6月に廃止し、23館それぞれに定数25人以内の委員からなる公民館運営協議会を設置して、住民と館長が公民館の各種事業の企画実施、その他運営に関して協議し推進している。委員構成は、公民館長・学校教育関係者・地域団体関係者・利用団体代表者・学識経験者・公募による者等で、任期は2年。本市の企画実行委員制度とも一部似ていることが視察の対象となった。

(田中議長)

ITサポートセンターは常設なのか。

(中嶋公民館長)

平成12年度に国のIT戦略の一環として、パソコンが全国に無償貸与され、パソコン講座が全国的に展開された。その際に使用したパソコンを、その後も活用するために貫井南分館にITサポートルームを設置し、講習等を実施してきた。その後、平成15年からボランティアスタッフによるITサポートセンターを開設している。毎週日曜日と水曜日の午後、ITボランティアスタッフによるパソコンなんでも相談を実施し、デジタルディバイドの解消とスキルの向上を図っている。パソコン講座から予約なしの無料相談を実施している。

(伊藤委員)

ITサポートセンターは、利用者には登録をしてもらい、発行されるカードを持って行けば、個人が自由にパソコンを使用できる。

(3) その他

なし

2. 協議事項

(1) 第5ブロック研修会について

(田中議長)

平成20年度第5ブロック研修会は、10月に社連協の全大会があることを考えると9月中旬くらいには実施するのがよい。参加市は第5ブロックに属する、府中市・小金井市・狛江市・武蔵野市・調布市・三鷹市の全6市。40～50人程度の参加者が見込まれる。開催場所として考えられる市内施設としては萌え木ホール等。研修内容によっても変わってくるだろう。テーマ及び内容については、前回の会議での話合いの中から、「ネットワークの構築」「地域教育会議の実現のためのステップとしての活用」「小金井らしさ」「人材バンク」等がキーワードになっていくのではないかと。シンポジウム形式をとる方法もあるが、施設見学等を行うのであれば、東京農工大学に繊維博物館もある。繊維博物館では、染物等を行っている市民のサークルが大学の施設を使用しながら活動をしている。そのような場を見学し、教育施設と市民とのつながり、活動の場について話を聞くことも可能だろう。繊維博物館は市の主催授業でも活用しているのでは。

(伊藤生涯学習課長)

生涯学習課でも団塊の世代のための講座で、フィールドワークとして繊維博物館の見学等を行っている。

(田中議長)

繊維博物館等で基調講演を行い、その後施設見学をするということも考えられる。

(伊藤委員)

時間の制約等ある中でどこまでできるか。社会教育委員の研修会として、繊維博物館の見学を地域との関係をどのように位置付けるか。

(彦坂委員)

歴史もある施設なので、郷土の歴史の掘り起こしとして結び付けられるのではないかと。

(田中議長)

繊維博物館の中で、大学の施設を利用しながらサークル活動等を行っている人たちがいるので、それらの活動を紹介しながら、地域活動と大学等とのつながりという点で位置づけられるのではないかと。

(本川委員)

「見学を希望する人は何時から」というように別に時間を設けたり、研修会終了後懇親会までの間の時間を使って見学会を行ったりすることも可能ではないかと。

(浦野委員)

キーワードの中に「小金井らしさ」という言葉があるが、小金井の特徴のひとつとして大学が多いという点があげられるので、農工大学等の施設を利用するというのも

良いと思う。また、小金井は子供会が活発に活動しており、そのような点もひとつの「小金井らしさ」の要素のひとつではないか。

(倉持委員)

ブロック研修会の目的というのは同じ地区の社会教育委員同士の交流なのか、自分たちの地域の社会教育を持ち寄った、委員としての学習会なのか？

(田中議長)

両方の目的があると思う。他市の委員との交流によって、他市の情報を得て自分たちの地域での活動に活かしていく。交流と学習両方の場であるのではないか。

(倉持委員)

幹事となった市の位置づけとしては、他市の委員に研修を提供する立場なのか、自分たちも一緒に研修を受け、勉強をする立場なのか。

(田中議長)

以前の研修会の経緯を見ると、両方ともある。幹事市も含めたそれぞれの市が発表者という形をとった市もあれば、基調講演をしてシンポジスト等の役割を務めた市もある。当番になる市の判断で行われているのではないか。

(倉持委員)

市内の施設見学となると、他市の方に見ていただくという形で、小金井の委員にとっては確認になる。個々に活動している団体を研修会の場に呼んで、それぞれの報告をしてもらうという形になると、我々にとっても新しい発見になるのではないか。

(小林委員)

横の関係がなかなか繋がっていかないという話が前回の会議でも出ていたが、小金井でもNPO法人や任意団体等、社会活動を行っている団体が相当数ある。今回の研修がそれらの団体が互いに情報交換を図る機会、団体同士を互いに知る機会となるとよい。自分たちの勉強のみならず、活動について発表の場、紹介の場となればよい。

(田中議長)

この研修会は、社会教育委員だけのクローズされた研修会なのか？

(伊藤生涯学習課長)

基本的には社会教育委員の研修会なので、行政職員等は同行するが、一般にオープンなものではない。

(倉持委員)

オープンにすることは可能なのか？

(伊藤生涯学習課長)

今までは事例がないというだけで、不可能なわけでないと思う。

(彦坂委員)

小金井市の場合、公民館が表彰されており、その歴史や公民館の今後のあり方等について基調講演等を行って欲しい。公民館活動が表彰された経緯を説明願いたい。

(中嶋公民館長)

表彰された理由は、企画実行委員制度を設け、市民の参画がされてきていること、ITサポートセンターや青年学級みんなの会、ハローフレンズ教室等の特色ある公民館活動が評価された。

(倉持委員)

現在公民館が抱えている課題等があれば教えて欲しい。

(中嶋公民館長)

都市型公民館が抱えている課題として、公民館のあり方が挙げられる。教育基本法等の法改正に伴い、社会教育法も変わるであろうと予測される。このような点を踏まえ、自治体によっては公民館からコミュニティセンター・市民センター等へ移行しているのも事実。指定管理者制度等、運営においても様々な手法が出てきており、現在、自治体ごとに真摯に検討しているところ。

(倉持委員)

小金井も例外ではないということか。

(中嶋公民館長)

時代にあった方法を検討していかなければならない。

(倉持委員)

これまで公民館等を核として積み上げられてきたもの、評価されてきたものがある。新しく入ってきた事業もあれば、表彰されたからといって安心してられない現状もあり、公民館を核にして横の繋がりを考えれば繋がって行くのかなとも思う。

(彦坂委員)

企画実行委員会という小金井独特の制度が確立していることは、表彰された中でも中核部分になるのか。

(中嶋公民館長)

そうであり、また、東京都教育庁の生涯学習課もよく理解してくれている。神奈川県相模原市からの行政視察も、相模原市が公運審を平成15年6月に廃止し、運営協議会を立ち上げるという新しい取り組みを行っていて、それに当市の企画実行委員制度がよく似ているという点からの視察だった。

(伊藤委員)

この企画実行委員の活動で、今注目を浴びているのがシルバー大学等の講座だろう。これは、企画実行委員が自分たちで作った講座である。女性講座、子ども体験講座等についても企画実行委員がアイデアを出し合って開催している。外部の講師を招く際の折衝等は公民館の職員にやってもらっているが、企画・運営等は実行委員が主となって実施している。

(田中議長)

これまでの話を総合すると「小金井らしさ」を出しながら、それぞれをどのように結び付けていくかが重要。普段一同に会する機会のないような人たちを集め、問題点や活動の様子などの情報交換ができるとよい。

(田尻委員)

縦糸と横糸をつなぐネットワークの構築という話が出ているが、色々な場で活躍している団体を結びつけ、情報交換の場として、核になるものを中心に組み組めると良い。他の団体等の活動を知ったうえで次の行動に繋がっていくということが大事。そのような機会の場として第5ブロック研修会を考えていくというのは有効だ。「ネットワーク」といっても、核がないと集約されていかない。

(彦坂委員)

子ども家庭支援センターと学校との関係はどうなっているのか。

(田尻委員)

家庭支援センターは第四小学校から近い位置にある。虐待の疑い、親が子育てに悩んでいる等の様々な課題に対し、学校では保護者との話の中で子ども家庭支援センターへの相談も薦めている。家庭支援センターとは相互に連絡を取り合い、学校や家庭での子どもの生活をサポートし、問題の解決を目指す。学校によっては、公開講座の道德授業に講師として職員を招き、講演等を行ったりもしている。

(倉持委員)

核となる場所が大事だという話が出たが、実際に活動している人たちに着目して横に繋ぐのか、公民館や学校、子ども家庭支援センター等、ある程度組織を見通して仕事としてやっている部分と縦に繋ぐのか。目線が違うので、横糸と縦糸が入り混じってしまうと難しくなってしまうのではないか。

(彦坂委員)

縦の繋がりというのはわりと分かりやすいが、横の繋がりの方がはっきりと見えてこない分かりづらい。

(本川委員)

他市に誇れるような「小金井らしさ」を紹介していくのがよいのではないか。社会教育・生涯学習の重点が、今回研修を行ううえで視点を持たなければいけないところだと思うので、その中で小金井市として誇れるようなものを取り上げ、次へのステップへつなげていけるようなものがよい。こういうものにしようという意思統一をしないとうまくいかない。また、楽しく興味を持って聞けるようなものにしていきたい。

(浦野委員)

ブロック研修に出席し、自分の市に帰った後に、今後の活動をこういうふうにしようと意欲的に思えるようなブロック研修が一番良い。前向きに取り組むことができる研修にしたい。小金井の教育の中にある7つの目標を軸にして、それぞれの分野で活動している人たちが集まれるようなプランを立てたい。何かに偏るのではなく、社会教育委員が集まるのであれば、社会教育全般を考えた研修のほうがよいのかとも思う。

(田中議長)

いくつかの案が出たが、骨組みを作り、そこから動いていきたい。

(2) 三者懇談会について

(田中議長)

前回の会議で、3月14日に開催する方向で話を進めていたが、議会等の関係があり、行政側の態勢が整わない。そのため、日程を3月21日(金)の午後2時からに変更することとしたい。

[三者懇談会の3月21日への日程変更が了承された。]

(伊藤生涯学習課長)

場所は調整し、決定次第お知らせする。内容としてはそれぞれの委員会で抱えている課題や現状等について話し合う情報交換の場として欲しい。議題・テーマになりそうなものを、各館から集約します。

(田中議長)

互いの関わりが、より密になるようなきっかけになると良い。

(3) その他

・社会教育委員研修について

(伊藤生涯学習課長)

3月9日に社会教育委員研修が予定されている。テーマは「地域の力で学校を支える」。研修会への参加の集約をしたいので今週中に出欠を事務局まで知らせて欲しい。

・平成20年度の社会教育委員の会議日程について

(伊藤生涯学習課長)

4月以降の会議の日程を決めたいので、先生方の授業の日程等の都合を2・3日中に生涯学習課まで連絡して欲しい。

・第1回定例会について

(石川生涯学習部長)

定例会は2月21日に開始、3月24日頃に終了する予定。生涯学習関連の一般質問等はほとんどないが、市民活動センターや子育て関係の質問が出ているので、そのあたりの連携等で生涯学習にも係わってくるかと思われる。平成20年度予算は、自然体の一般会計総額が約369億7100万円。前年度が約341億2900万円となっているので、前年度から比べると28億4000万円ほど伸びている。市税徴収の伸びが少し伸びているということと、国や都の交付金関係で伸びている。教育費は学校教育と生涯学習を併せて、46億1661万3千円で提案している。前年度は45億231万5千円。対前年度比1億1400万程度となっている。社会教育費は11億4720万円前後で、こちらは2千万円ほど微減となっている。全体としては、一般会計に教育費が占める割合は12～13%程度で推移をしている。

・中国産冷凍餃子の学校給食への影響について

(浦野委員)

給食の食の安全について、小学校では「安全です」という内容のお知らせが着ていた。昨年から一部の中学校の調理が民間委託されており、4月からは全中学校での調理を民間委託する話が進んでいる。小学校と同様、冷凍食品は使用されていなく、野菜等についても地場のものを中心に学校のほうで購入していただいているということになっているようだが、こちらも引き続き大丈夫との認識でよいのか。

(石川生涯学習部長)

学校教育部の所管事項なので私共が詳しく応えられる域を越えてしまうが、すぐ調査に入り安全の確認を取っているものと思う。今後も食の安全等については引き続き最大限配慮していくことになるだろう。

(伊藤生涯学習課長)

生涯学習課でも清里で食を扱っているが、全庁的に食を扱う部分については総点検を行うよう指示があったので、学校教育部についても当然点検をしていると理解している。

・公民館の職員体制について

(倉持委員)

公民館の職員体制が変わるとの話を耳にしたが、どうなる予定なのか教えて欲しい。

(石川生涯学習部長)

現在、分館は3人体制で、正規職員と非常勤職員は2館に各1人が勤務しているが、団塊の世代の退職等に伴い、職員2人と非常勤1人という体制で平成20年度に前倒しする方向で検討中であり、組合と協議中である。

(倉持委員)

非常勤職員が増えると、正規職員は減るということか。

(石川生涯学習部長)

全庁的にも財政が厳しい中、職員を減らしていく傾向にある。退職した職員の再任用制度等も活用しながら運営していきたい。

(倉持委員)

市民からしてみると、職員の専門性や市民活動の支援をする立場がなくなってしまうというのは大きな問題だと思うので、今後も会議の中で状況をご報告いただきたい。

(石川生涯学習部長)

基本的には労使の問題と認識しているが経過については報告していきたい。

以 上